

第7回草津市総合計画策定市民会議 次第

日 時：平成20年12月8日（月）
午後7時から
場 所：草津市役所8階大会議室

- 1 開会
代表あいさつ

- 2 ワークショップ
「これからのまちづくりの取り組みについて②」

- 3 その他

次回会議の日程調整について

【資料】

- 資料1 - 1：ワークショップ「これからのまちづくりへの取り組みについて②」
資料1 - 2：第6回ワークショップまとめ

第 7 回 草津市総合計画策定市民会議

【グループワーク】

これからのまちづくりの取り組みについて②



本日の目標

- 第 2～4 回の市民会議の成果である「草津全体の課題」のうち、各部会における課題について、これからの「まちづくりの取り組み」を検討します。(前回のグループワークの続き)

ステップ 1 : 前回までの作業の振り返りとグループワークの説明 15 分

- ・ 「草津全体の課題」と本日取り組みを検討する課題を確認します。
- ・ 本日のグループ作業の内容と進め方を説明します。

ステップ 2 : 草津のまちづくりの取り組みを検討する・ 第 2 弾 70 分

- ・ 「草津全体の課題」のうち、各部会による課題について、それぞれ「まちづくりの取り組み内容」を検討していきます。

水色の付せん :

- ・ まちづくりの取り組みを書いてください。
- ・ 取組み内容について、どこが担うのか役割(市・市民など)を考えてください。

ステップ3 : 各部会の意見のまとめ10分

- ・ 各グループで意見を整理し、発表者を決めます。

ステップ4 : 発表 (4 グループ×3 分程度)15分

- ・ 発表者の方だけでなく、他のメンバーの方も、適宜、補足してください。

ステップ5 : まとめと次回のプログラムの予告 5分

終了・解散

[今年度の市民会議の取り組みの予定]

第1回	趣旨説明、草津市の概況把握、部会の編成	済	全体会
第2回	【GW】“わがまち草津”を語って、視察先を決めよう！	済	
第3回	【GW】 まちを歩いて、よいところや課題を確認しよう	済	部会
第4回	【GW】 草津のまち全体をながめてみよう	済	
第5回	【GW】 将来の草津のまちをイメージしよう	済	全体会
第6回	【GW】 これからのまちづくりの取り組みについて①	済	部会
第7回	【GW】 これからのまちづくりの取り組みについて②	本日	
第8回	検討結果の取りまとめと構想への反映について	未	全体会

第6回市民会議ワークショップまとめ

平成20年12月8日(月)
第7回草津市総合計画策定市民会議
資料1-2

部会	大項目	小項目	目標	手法(誰が誰に)	取り組み内容
第1部会	文化の違いと理解の難しさがある		イベントにとどまらない日常での理解		イベントにとどまらず自分の日常の文化を理解してもらう努力が必要だ
					標識などの多言語化については、どの言語をとりあげるのか検討が必要だ
	豊かな自然環境が減りつつある	自然が減っている	現在残っている自然を保全する		転入者のための講習会を開催してはどうか
					行政と外国からの転入者をつなぐルートがない、湖南などの件レベルでの取り組みも考えられるが、市町村レベルで施策が違う
					市街地調整区域での大開発の抑制には具体的にどんな施策が必要か
					田園地域は10年後に住みやすいかを検討する必要がある
	環境問題に取り組む必要がある	ゴミ問題、河川浄化に対する意識が低い	ひとりひとりができることを		歩行者の目さんにたったまちづくりとしては、市街地のリニューアル
					開発用地の3%を公園用地にまわすが、ため池などの自然保護にまわせないか
					みんなで一斉清掃の取り組みが意識の向上につながる
					自然も放置されているとゴミのたまり場になるので管理が必要だ
魅力のある公園整備が必要だ	公園の整備が不足している	住民参加の公園づくり		子どもへの啓発活動が必要だ。親への波及効果もある	
				行政としては、清掃活動に参加してきたがゴミは減ってきた	
	住民主体の公園管理が必要だ			粗大ゴミが多くなってきた。テレビや自転車など。デポジット制は検討できないのか	
犯罪や安全性が不安だ	犯罪や安全性が不安だ			古い遊具を取り替える費用を自然の保護に回せないか	
防災				公園づくりの段階で自然を残すような工夫が出来ないか	
				住民参加の公園づくりで維持管理も住民主体で	
				ボランティア活動に対する地域の理解がないと、活動自体があやまられる	
				防災のヘルメットなどを自治会に配布する制度がある	

第6回市民会議ワークショップまとめ

平成20年12月8日(月)
第7回草津市総合計画策定市民会議
資料1-2

部会	大項目	小項目	目標	手法(誰が誰に)	取り組み内容
第2部会	子どもが育つ環境づくりが必要だ	子どもが育つ環境が整っていない	公園整備の充実		地域(自治会やクラブなど)の所有するグランドゴルフ場を子どもの遊び場として開放
		母親を支援する場が必要だ	子育て中の親が子連れで過ごせる場づくり		老人会の集まりへ誘い、世代間交流を楽しむ。参加しやすい工夫をする。 子育て相談ダイヤルを高齢者が担当
	生涯学習の制度や運用を充実する必要がある	生涯学習の内容や運営に課題がある	生涯学習関連情報の集積、発信		学生や退職シニアが担当
					新しくできるコミュニティFMが担当(メディア発信基地となる)
	文化的な魅力が不足している	オリジナルな魅力が不足している	名物、お土産をメジャーにする		草津出身の有名人に宣伝してもらう
					地元のものとはとにかく一度食べてみる。そのため、喫茶店などで名物を出すようにする 市民参加型で商品開発をする
		観光資源が少ない	観光のアクセスを良くする		琵琶湖博物館・水生植物公園に隣接して、動物園をつくる
			文化財の蓄積・発信		草津宿へは、歴史をキーワードとして関連付け、他地域より誘致する(たとえば京都から) 文化財を身近なところで見られるように、学校の文化祭や、地下道の壁、草津川のトンネルなどで見せていく
	健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している	高齢者・障害者の場が少ない	高齢者の活躍の場づくり		老人クラブが仕事の場をつくる(駄菓子屋など)
			高齢者が買い物に出かけやすいしくみづくり		市がコミュニティバスを走らせる、民間バスのチケットを高齢者に発行する 商店街がバスチケットの補助券を高齢者に発行する
			高齢者・障害者が出かけやすいハンド整備		乗り合いタクシーを実施する
		医療体制の充実が必要だ	かかりつけ医の充実		歩道と車道の段差をなくす 医師会の協力により休日・24時間診療を増やす
		大規模スポーツ施設が不足している	スポーツ施設の充実		烏丸半島にサッカー場をつくる

第6回市民会議ワークショップまとめ

部会	大項目	小項目	目標	手法(誰が誰に)	取り組み内容
第3部会	駅前が開発が急激に進んでいる	開発が中途半端	明確な土地利用	住宅や住環境→住民、まちづくりNPO、企業、行政	エルティの再生、駅前の入り口 土地利用の方向性の明確化(土地利用のルールをはっきりさせていく、ルールづくりを確立など) 産業立地のための用途を柔軟に対応できるようにする(工場にもいろいろあり、周辺に悪影響を与えないクリーンな工場なら、活性化に寄与。)
			駐車場の整備		中心市街地(商店街)の活性化(中心市街地の道路整備、駐車場の整備) 公共の駐車場の設置
			中心市街地の活性化	住民主体で進める(まちづくり委員会)、行政は協力	草津まちづくり委員会、または、さらに強力な「まちづくり会社」を組織する。 道路、駐車場、大型店の再建 組織作り、方針の誘導、法令整備、資金補助
	交通環境の整備不足	道路整備の不足	サイン		わかりやすい町にするために、サインを設置する(かわいい地図など)
			キャパシティに合った交通体系へ		歩道、自転車道の整備を行う 新交通システム(コンパクトシティを将来像として)
	第一次、第二次産業が盛ん	地域の特色を活かした第一次産業の可能性はある	農水業の活性化	草津IA中心、小規模農家が加盟する。段階的に(試行錯誤)、目的をはっきり(ニーズに合った供給)、安いこと(儲けを度外視してるから可能?)	小規模農家の活性化と若手育成のため、地産地消の基地マーケットを作る(あおばな館ではニーズと供給のミスマッチ。ほんとに望まれるものを売る。)
					地産地消を進めるために、地元産のものを使った料理を食べる、料理教室の開催、など
	衰退した商店街を活性化したい	商店街が衰退している	商店街への人の流れを作る。	主体は民間や事業者	商店としてやってみたいプランを募集し、1ヶ月など短い期間、店をやってみる(チャレンジショップ)
					マンションが商店街に貼り付きすぎ 緑が少ない 歩いて暮らせるまち 商店街の一筋裏にオフィスを設ける。 商店街にオフィス化エリアを作る(商店街の一筋裏にオフィスを設ける。)
		商店街活性化の戦略をたてる必要がある	戦略が必要	地産地消	地元に着したにぎわいと、風情のある街づくり コンセプトの例「安心」「価値と興味の創出」「調和する」 人が集まるきっかけは、「衣・食・知」
					中心部、居住地域の近所に直売所を設置

第6回市民会議ワークショップまとめ

平成20年12月8日(月)
第7回草津市総合計画策定市民会議
資料1-2

部会	大項目	小項目	目標	手法(誰が誰に)	取り組み内容	
第4部会	草津らしい協働のイメージづくり	草津の「協働」のイメージづくり			このグループの中でも協働のイメージは違う。	
					多様な価値観の人がいる、多様な協働の形がありうる。	
					パッチワークのようなイメージ。	
					いろんな人が集まるためには、ゆるやかな形が草津では必要。	
					協働の必要性、課題に直面しないと感じないことが多い。	
	草津の魅力づくり	定着する人が増える、魅力あるまちづくり				住民の入れ代わりが多い。つながりを求めている人も多い。
						新旧住民の世代間の問題への対処。
						それぞれの自分にとって住みやすい町にしていくこと。
						「住みやすい」という感覚、価値観は多様化している。
						協働という視点からの魅力づくりを考える。
	市民活動・地域へのサポート	市民活動・地域へのサポート	情報提供			出てきたくない人を無理やり引っ張ってきても仕方がない。
						やりたい人がやりたいことをやれるよう、情報提供をサポート
						地域でどんな活動をしているか、情報の仲介、ヒントや情報の提供
			ボランティアグループへの支援			ボランティアグループへのサポート
			ボランティアセンターの活用			ボランティアセンターを、ボランティア活動や地域活動をする人、市民のニーズに合わせた運営を。
	多様な人々が市民活動に参画するべきだ	地域間連携・協働		地域間の協働を進めること		他地域の市民活動支援の情報を集めて検討する必要がある。
						草津の中にも自然環境豊かな地域、田畑が広がる地域、市内の市街地など多様な地域がある。それらが互いに連携すること。(魅力づくりにもつながる)
		大学・学生との協働		大学の中で取組を継続して受け継いでもらえるよう働きかける。		立命館大学、8000人は草津に住んでいるが、卒業したら離れていく。
						立命館大学学生がもっと地域に関わってもらうように。
						企業で働く人たち、子どもたちも含めたその家族が地域に関わるように働きかける。
企業との協働		企業で働く人への働きかけ		CSRという視点から、地域と企業のつながりづくりを考える		
		CSRという視点からの働きかけ		地域からのアイデアや意見を受け止めることのできる仕組みに改革していくこと。		
市民と行政の協働を進める必要がある	行政の仕組みの改革				地域でどんな活動をしているか、情報の仲介、ヒントや情報の提供。	
		各種情報提供、仲介役を担えるように			協働を支える役割。(再掲)	